

現代用語

時代の鼓動を反射する新語外来語の宇宙・

AとBの二つの表紙をもつ万能事典

の

基礎知識

1972

拡大版



自由国民 — 72・1

特集

現代の思考法
発想法を理解
する用語集

- 経済用語
- 世界経済用語
- 歴史用語
- デザイン用語
- 地学用語
- 家政育児用語
- 金融用語
- 外交用語
- 地理用語
- 宇宙開発用語
- 数学用語
- 住宅用語
- 農林漁業用語
- アメリカ用語
- 考古学用語
- 原子力用語
- 単位用語
- 食生活用語
- 政治理論用語
- 貿易用語
- 欧州問題用語
- 工学用語
- 未来学用語
- 服飾用語
- 経済理論用語
- 経営用語
- 中国問題用語
- 物理学用語
- 情報社会用語
- 美容用語
- 社会主義用語
- 株式用語
- インドシナ用語
- 化学用語
- 電算機用語
- 趣味娯楽用語
- 共産主義用語
- 都市交通用語
- A A L A用語
- 生物学用語
- 成長産業用語
- 旅行用語
- 政治用語
- 公害問題用語
- 各国事情
- 医学用語
- 社会風俗用語
- 行政用語
- 労働問題用語
- 哲学用語
- 演劇用語
- 性科学用語
- スポーツ用語
- 財政用語
- 社会福祉用語
- 宗教用語
- 新聞出版用語
- 薬学用語
- 野球用語
- 法律用語
- 国際法用語
- 教育用語
- 放送用語
- 天文用語
- 自動車用語
- 軍事用語
- 世界政治用語
- 心理学用語
- 広告宣伝用語
- 気象用語
- カメラ用語

表紙

A



「現代用語の基礎知識」72年拡大版と 四分の一世紀の本書の歩み

(1) 新語事典の始まり

現代用語の第一版は、昭和二十三年七月に発刊された。B6判八十ページで、今度の拡大版B5判一千五百ページに比べると、収載語数はわずかに二十七分の一の小冊子にすぎないが、過去二十五年間の現代用語のうちでは、この第一版が最高の売行きを見せている。

当時は終戦直後で、新聞雑誌放送は耳馴れない新造語で氾濫していた。進駐軍用語、民主化用語、共産党用語、PTA用語など、社会情勢の激変にしたがい、毎日のように新語・専門語・流行語が放出されるが、これらの新しい言葉を理解するには、漢和辞典でもちろんダメである。英和辞典を引いてもわからない。百科事典の類はいつこう役に立たない。新しい言葉の事典を要望する読者の投書が小社編集部に山積した。おそらく当時は、どこの新聞社、雑誌社の机上にも同じ現象が見られたであろうと思う。それに読者よりも先に、われわれ自身が職業柄、新しい言葉の事典の必要を痛感していたといつてよい。かくて現代用語の初版が自由国民社創立二十周年記念出版として発行されたのである。

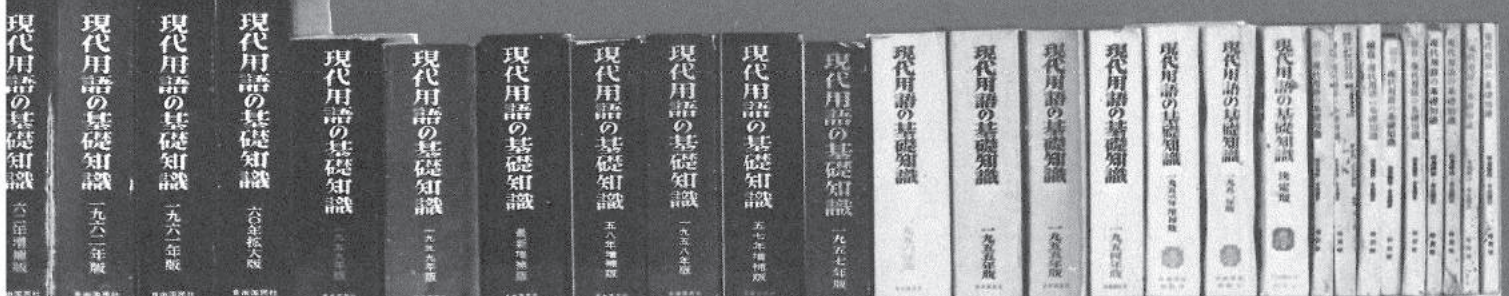
この初版の表題は、最初は「現代常用語の基礎知識」と予定していた。初版によせられた小泉信三氏や中山伊知郎氏の文章にも「現代常用語」という言葉を使っている。「社会各方面に新しく常用された新語の解説」という意味では、確かに「常用語」というのが正しいといふべきであるが、語感と字句の簡潔をきして発行するときは「現代用語」に改めた。幸い国民の要求にピントがあり、初版発行のその月から増刷につ

ぐ増刷で、一年以内に八十万部余を売りつくし出版界に「新語事典」という新しい分野を開拓することできたのは幸せである。一時は類書続出で八十数種を算したことがある。

(2) 「新語の窓」に映る社会風景

初版以来、今日まで、われわれは微力を尽して新語流行語の集録・解説の役割を果たし、収載語数は毎年版ごとに増大したが、語数の増大以上に収載用語の内容は、人間の歴史の変化の兆候を示すほど、この四分の一世紀の間に変化している。例えば初版当時に、あれほど濫用された「民主化」という用語も今はほとんど使われていない。「米よこせデモ」「国共内戦」「話の泉」「カストリ酒」「パンパン」「GHQ」などの流行語は、今や遠き日の夢である。

たしかに言葉は「社会の窓」と思う。この二十五年間の「現代用語」には日本と世界のあらゆる事象が投影されている。それは発刊の目的通り「社会常識のエッセンス」であるとともに、巻を重ねるにしたがつて「過ぎゆく社会風景のフィルム」の機能を持つてきたといつていい。今日の花形用語の「宇宙開発」も「コンピュータ」も「GNP第二位」も「中国国連加盟」も「イッピー」も「公害」も初版には影も形もなかった用語である。これら最近の、とくに増大する一連の新語の傾向は、われわれにさらに重大な社会の変化が、新語の形で本書に登場することを予感させる。このテンポで進むと五年後、十年後にはどんな社会情勢が現代用語の窓に映し出されるであろうか。



(3) 本書の三つの願い

われわれは最初「現代用語」を企画したとき、従来の事典にない三つの特色を維持しようとした。

第一は従来の事典のように、前後の脈絡もなく、アイウエオ順の配列で言葉だけを引出す編集を避け、できるだけ体系的に全用語を整理し「引く事典」とともに「読む事典」「その部門の新しい動きが読者に感じられる事典」をつくりたいこと。

第二は豪華なカバーや上質用紙を使った高価な装飾的事典でなく、国民が毎年買いやすい超廉価な新語年鑑を提供したいこと。

第三は一冊の小事典の中に、他の数冊の大事典に劣らぬように現代の知識をコンパクトし、最適の筆者、最高・最新の解説をこの事典の生命としたいこと。

さいわいにわれわれは、この三つの願いの線にそつて、牛歩遅々たる感はあるが、今日まで進むことができた。いつに本書を愛読していただいた、何百万の読者諸君と解説を担当していただいた執筆者各位の賜物である。心から御礼を申しあげたい。

(4) 今後どう進むか

「現代用語」はこれからどう進むべきであろうか。われわれは初版の発行の辞で、アメリカの「アメリカン・ランゲージ」、フランスの「ラ・ルース」を引用して左の如く読者諸君に訴えたことを想起する。

「アメリカにはH・L・メンケンの膨大なアメリカン・ランゲージの定本があり、アメリカの新産業・新発明・新現象を反映して、次から次へ産出されるおびただしい新語スラングの類をいささかも拒否することなく、毎年追加版に集録し、解説している。そこにメンケン事典の意義があり、用語の窓から見たアメリカの若さが現われている。」

「ところが老成の知恵を持つフランスの「ラ・ルース」では事態はむしろ逆である。ラ・ルースはほとんど国定的に近い権威ある事典である。ある一つの用語をこの事典に

載せるか載せないかは、アカデミ・フランセーズの碩学権威が集まって純粋なフランス語の保存という見地から、詳細に検討する。たとえばO・Kなどというアメリカ由来の俗語はこのアカデミーの関門で拒否されて載っていない。」

現代用語の創刊にあたって、このメンケン型とラ・ルース型をわれわれは比較検討して、現代用語は、若若しく動く国のアメリカン・ランゲージの日本版を作りたいということを目指し、一路新語流行語を拒否することなく収集してきた。その結果ページ数は年々増え、本のサイズも初版のB6判から昭和三十五年にA5判に変わり、今年版にいたり、遂に、B5判一千五百ページに達し、いまや一つの編集の転期にきたことを感ずる。

すでに情報化社会にさしかかっているわれわれの社会の産出する新語の分量は、今後、途方もなく増大する一方であろう。これを無差別に集録することは、むしろ無意味に近くなるであろう。

われわれは本年版以後の編集については、これまでの新語収集の作業のほかに、これらの新語の重さを選別し、コンパクトして解説する機能を一層、強くしたいと思う。現代用語の重さは、現代の知識の重さであり、「現代用語」の大きさは解説分野の広さであるというところに、われわれは誇りを持っている。しかしそれは十分に選別された重さであり大きさであるとの確信の上にたたなければならぬ。本書はこれから従来のアメリカのメンケン型に、フランスのラ・ルース型を加え、一年一年、一冊一冊、この二つの型を合せた世界的な現代用語事典の完成をめざしてゆきたい。これが拡大版を機とした今後の編集の方向である。言い換えれば、創刊当時の三つの願いにさらに加える第四の願いといつてよい。変らぬ御愛読を望む。

一九七二年一月

自由国民社・長谷川国雄

現代用語の基礎知識 六訂増補版

現代用語の基礎知識 一九六三年版

現代用語の基礎知識 六訂増補版

現代用語の基礎知識 一九六四年版

現代用語の基礎知識 六訂増補版

現代用語の基礎知識 一九六五年版

現代用語の基礎知識 六訂増補版

現代用語の基礎知識

現代用語の基礎知識 1967

現代用語の基礎知識 1968

現代用語の基礎知識 1969

現代用語の基礎知識 1970

現代用語の基礎知識 1971

現代用語の基礎知識

●ここに集録した各種の地図は動く日本を的確に表現する新語であると編集部は考えている。

試みにこの特集の地図の名称を見よう。国立国定公園地図。戦前には、12カ所の国立公園が指定され、残りの11カ所は戦後の指定。現在の国定公園の指定は昭和25年に始まり全部戦後である。新幹線の第1号が昭和39年。高速自動車道の開通が昭和38年。カーフェリー地図・公害地図・過密過疎地図などは名称自体が最近の新語に属する。

戦前の地図は地形県境などの区分を主とした静態の地図である。ここに集録した戦後の地図群は動態的の地図である。名称が新しいばかりでなく、日本の成長と変化をそのまま反射して、内容が毎年毎年ダイナミックに変貌する。この点が大きな特色である。

たとえば旧一級国道の舗装率は昭和38年に27.7%だったか昭和44年には93.2%とほとんど舗装されている。高速自動車道は38年には延長71%にすぎなかったが、44年には10倍近くの650%に延びている。過密過疎地帯・公害地帯はGNP第2位を反映して激増する一方である。主要都市の人口も周辺の産業状況を反映して漸減都市と漸増都市の傾向が判然としてきた。その意味で、これらの地図は、動く日本の新語グラフと言っている。編集部はそういう意図のもとにこの「これが日本の交通・レジャー・人口・公害地図だ」と題して巻頭グラフにした。

新幹線地図

●自分の郷里にいつ新幹線がとどくであろうかなどと、新幹線は全国民の話題のひとつであり、東北新幹線の予定地周辺の地価はすでに暴騰したそう。昭和46年10月現在は東京一大阪間515%、3時間10分であるが、47年3月には山陽新幹線の一部大阪一岡山間170%が開通し東京一岡山間730%が約4時間となる。昭和51年3月までに完成予定の新幹線は山陽新幹線(大阪一博多2時間50分)、東北新幹線(東京一盛岡2時間30分)、上越新幹線(東京一新潟1時間40分)、成田新幹線(東京一成田30分)の4本があり、さらに昭和55年までには北越新幹線、東北新幹線の札幌までの延長などが予定されている。昭和60年には現在34時間30分かかる札幌一博多が11時間と短縮され、東京一札幌は実に5時間50分の早さである。日本全土が1日圏の中に入ってくる。

カーフェリー・高速自動車道・国道地図

●高速道路の第1号は昭和38年7月に開通した尾崎一粟東の名神高速道路の一部71%であるが、現在では東京・名古屋・京都・大阪・神戸のメガロポリスを結ぶ東名神高速道路や東京一富士吉田の中央高速道路の開通によって延長650%に達している。

カーフェリーはドライバーにとって便利なものはない。昭和29年、阪神一淡路島、淡路島一鳴門を走ったのを最初として、東京湾、伊勢湾、大阪湾、瀬戸内海などを横断する短い距離のカーフェリーはあったが、いまは1万%級の巨大なカーフェリーが出現し、すでに東京一日向(宮崎)を25時間、名古屋一高知一鹿児島を27時間で航海している。そのうち東京一北海道のドライブ旅行などは日常のレジャーとなるであろう。

地方都市間を結ぶ主要国道は、自動車台数増加とともに、ほとんど舗装され道幅も広がった。戦後の地方経済の発展には、最も大きな役割を果たしていると言ってよい。

都市人口と公害地図

●自分のいる市、生まれた町、旅行の思い出のあるところの人口が何万人なのか、ほかの都市に比べて多いのか少ないのかの比較は限りない興味を呼ぶ。

本書の人口地図では全国の市の人口はもちろん、主要な町の人口を千人単位で記入し、その都市の人口が漸減傾向にあるか、漸増傾向にあるかまでマークした。この地図で一目でわかることは、太平洋沿岸、とくに東京・名古屋・大阪における人口の集中度が高く過密地帯になっていることである。35年と40年の国勢調査人口で10%以上減っており、かつ財政力の弱い市町村は過疎地域として指定されている。46年10月現在1048市町村が指定されているが、指定を受けていないのは大阪・神奈川だけで北海道(138)、鹿児島(71)、熊本(55)などが代表的なものである。

人口とともに現在、もっとも読者の関心の深い問題は公害の問題であろう。この地図で見るとおり、人口と公害は正比例している。人口の多いところ、産業が発達しているところほど公害の記号も多くなる。もし読者が、住みよい健康都市を捜そうとするならこの地図は有力なガイドの役割を果たすが、結局、過疎地帯に行くことになるだろう。

国立・国定・海中・県立公園、自然歩道地図

●国立公園23カ所・国定公園44カ所併せて67カ所にのぼる。この67カ所全部を巡れば日本の自然美は全部満喫したと言ってよい。現にそういう大願をたてて毎年実行しているツールの数も案外多いと言われている。

県立自然公園は全国で279カ所にのぼっている。

海中公園は昭和45年から誕生したが、現在のところ国立公園の中だけに22カ所設けられており、サンゴの群生や熱帯魚などの泳ぐ様子をそのまま観光客に見せている。

史跡や文化財を見学しながらゆっくりと自然を探勝してゆくことを目的とした自然歩道は東京・高尾と大阪・箕面の両「明治の森」を結ぶ1275%の東海自然歩道、東京と茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・神奈川の6県を円を描いて結ぶ首都圏自然歩道、群馬・長野・新潟の3県の温泉・史跡・峠を結んだ上越自然歩道の3計画が実施されようとしている。この他に東北6県を結ぶ奥の細道自然歩道、中国地方の山陽自然歩道、九州を周遊する九州自然歩道のプランがたてられている。

航空地図

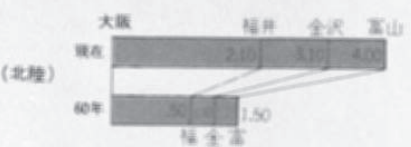
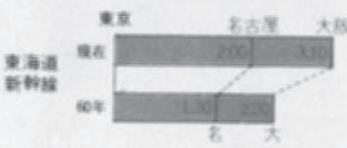
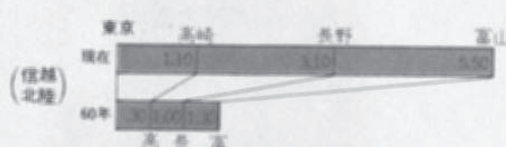
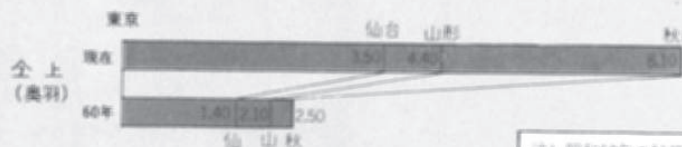
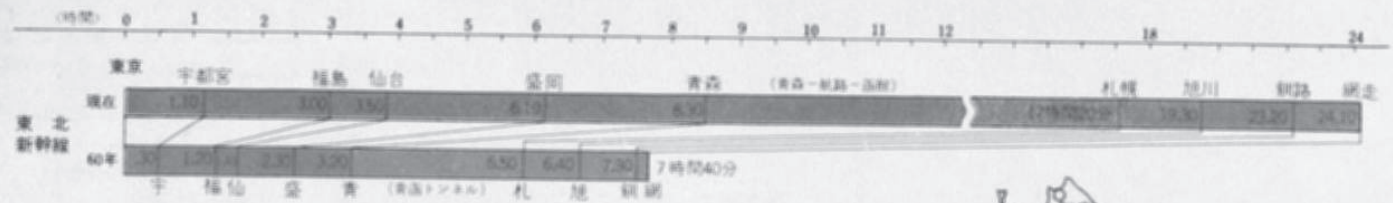
●国内の航空路線は東京・大阪を中心にほとんどの主要都市と結ばれている。東京一大阪、東京一札幌を50分足らずのスピードはありがたいが、一度事故が起った場合、ほとんど全員死亡という悲惨な事態はうれしくないというのが、国民多数の実態であろう。その実態にこたえて、戦後起った主な航空事故をピックアップし、事故地点を記入してみた。

●以上のごとくこの地図の変化をみれば、日本の国土の変化を総合的に把握することができるであろう。我々は現代用語社大阪のこの巻頭グラフで開始した動態地図の試みを毎年追求していき、新語事典のように便利で実用的な「動く地図年鑑」を出して行きたいと考えている。

資料提供

- 国鉄新幹線総合計画部
- 日本道路公団
- 建設省道路局
- 環境庁自然保護局
- 厚生省人口問題研究所
- 日本カーフェリー協会
- 全日本空輸K・K広報課

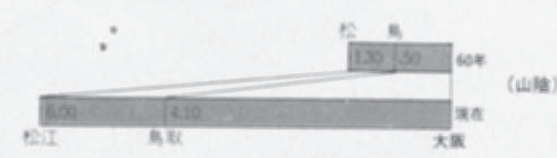
新幹線計画と時間距離の短縮

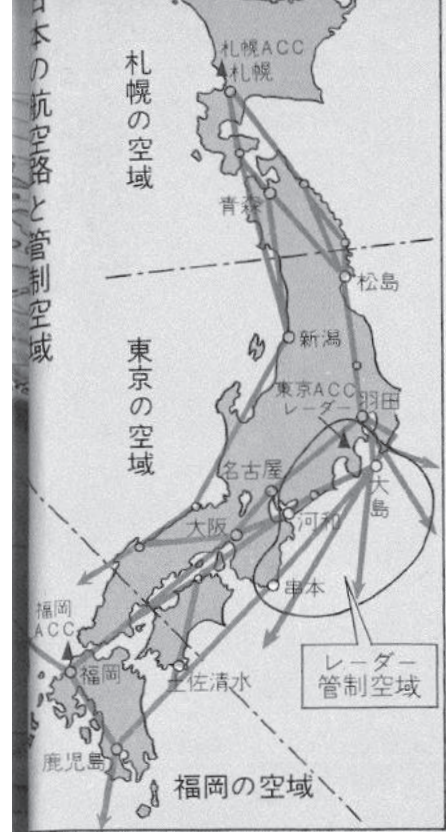


注1 昭和60年の試算方法
 ① 乗換え時間は10分とした。
 ② 新幹線の表定速度は200km/h(最高250km/h) 在来線の表定速度は120km/h(最高150km/h)
 ③ 青函トンネル、本州・四国連絡橋が完成したものととして試算してある。

注2 東北・上越新幹線
 ① 東北・上越新幹線の工事業実施計画が、昭和46年9月に完成し、10月上旬にも認可申請を運輸相に提出される見込みがあった。
 ② 地図上の()の駅名は、正式の名称が決定していないものである。

注3 資料
 ① 経済企画庁総合計画部、自由民主党国鉄基本問題調査会の資料にもとづく。

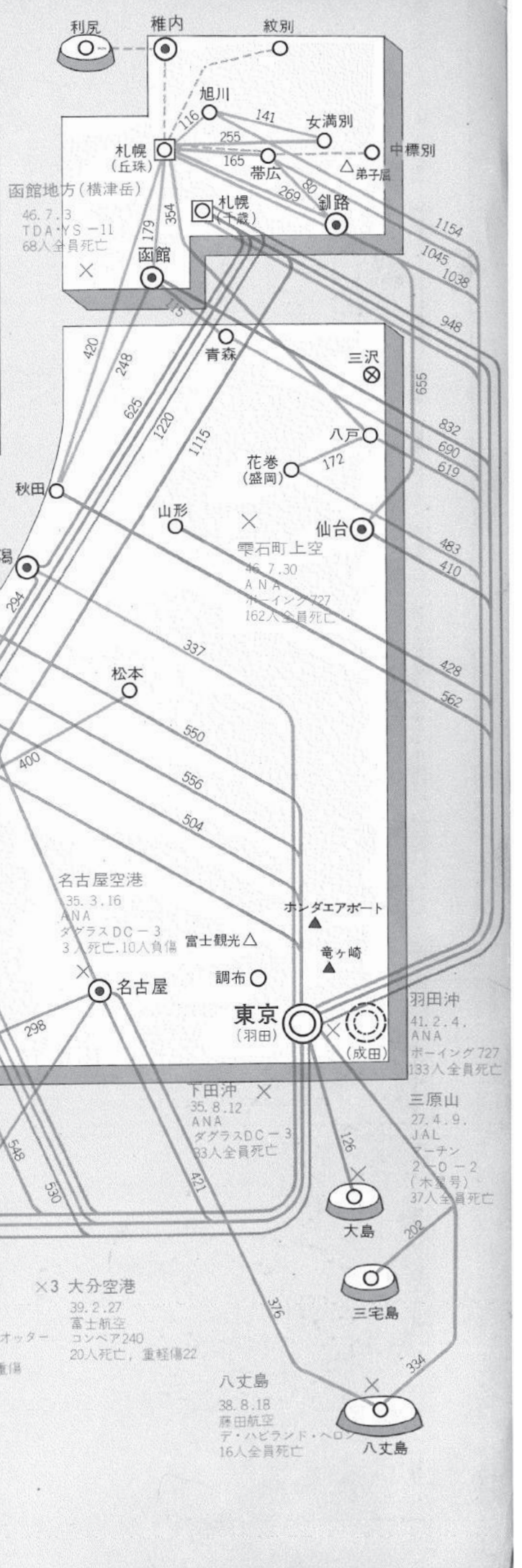




国内航空路

- 日本航空 (JAL)
- 全日本空輸 (ANA)
- 東亜国内航空 (TDA)
- - - 南西航空 (SWAL)
- - - 横浜航空 (YHK)
- ⊗ 飛行機事故
- ◎ 第一種空港
- 第二種空港
- 第三種空港
- ◻ 防衛庁・民間共用
- ⊗ 米軍・民間共用
- △ 民有飛行場(公共用)
- ▲ " (非公共用)

数字の単位=km
(昭和46年10月現在)



CC=管制本部

岐

江

与那国島

宮古島

石垣島

南大東島

×1 淡路島

×3 大分空港

×2 松山空港

八丈島

八丈島

ことばの広場 1

ミニ二語 幼児化語 について

稲垣吉彦
NHK放送研究所

常識を越える



いま、若者たちのあいだで、ジーンズ・ルックとともに、流行しているアーミー・ルックには、ちよつとびつくりさせられる。昔流でいえばカーキ色ないし国防色、これをアーミー・グリーンといえはなにやらしやれた感じだし、それに赤のスカートとのコーディネートも気がきいている。

いまの若者たちは、戦争さえファッションにしてしまっている。しかし、このアーミー・ルックどう見ても兵隊ごっこである。軍隊をパロディー化することによって反戦の意志をしめす、などというのは理屈である。もともと、男性的な軍服を若い女の子が着ること

とによって出てくる奇妙なかわいらしさ、これをねらっているのだらう。

この点はミニスカートやホット・パンツの流行と同じである。また、Tシャツにマンガの顔を描いたマンガ・ルックとか、そでが違ふ素材や色で作られていてちよつと見ると半そでのブラウスの下に長そでのセーターを着込んでいるようにみえるフェイク・ファッションもこのたぐいだ。長そでのブラウスの上にひどく小さい半そでのチヨッキを着るのもある。これは、いずれも、未熟を感じさせる奇妙さ、あどけなさからくるかわいらしさを表現する点で共通している。

と同時に、これは、もちろん従来の常識を拒否する感覚のあらわれでもある。そもそも純粋の下着だったのを色や模様をつけて上着としたのがTシャツ、さすが冬になるとこの下着スタイルではがんならばれないとあって、今度はラクダのシャツを染めなおしてポケットをつけて着だした。名づけてグランパーシャツ、これらを総称して中着などといっている。いずれもいわゆる「体制のおとな」の常識を越えている。

なのだ。

舌足らず文化



その、秋川リサのCMというのが、「……リサはいま数えてイマース」という国鉄のミニ周遊券で、その舌足らずの口調がう

けた。この「イマース」には「隣りの車が小さく見えマース、マースが多すぎマース」(日産のCM・昭45)があった。フォー・リーブスの「チューミー・チューミー・ロッセデス。クリムのはいってガムデース」(ガムのCMの「デース」も同系統だ。

フォー・リーブスの少年たちはふだんから「よろしくおねがいしマース」などと言っているが、この小学生の学校での教室口調のような「デース、マース」は、ファッションにみられる幼児化現象がそのままことばの上にあらわれたものとみていい。(実際にはファッションやことばだけでなく行動の面でもかなり幼児化が目立っている。たとえば深夜放送の「おたより紹介」や、「身の上相談」の流行もこれだという説あり)。

種である。だが「ワンワン」、ネコが「ニャアニャア」のたぐいなのである。「鼻血プー」の「プー」や、「やったぜカトチャ」の「カトチャ」、「ほく、スマート」の「ほく」それに、「グヤジイ」なども、いつてみれば幼児語の一種で、これが昨今の流行語の主流と

いっている。 さて、ここでは「……デース、マース」といった話し口調の型にしぼってみたい。 「……が当っちゃあう。……が当っちゃあう。……が当っちゃあう。……が当っちゃあう」などの「……ちやう、ちやあう」がある。「……が当たります。応募しましょう」というところを「……ちやう。……ちやあう」と言う。「チャオ、チャオと食べちゃあう」のCMや堺正章の「かんちようしちやうから」もこれだし、「感じちやう」 「……と思えちやう」はいまの若者ことばの典型だ。「……ちやう」には親しい仲間どうしが軽い調子で言うことばで、いたずらっぽ

い甘えがある。 甘えといえば、スプリーのCMの「行っちゃイヤー」の「イヤー」や「いいんだわア、イカスんだわア」などの「……わア」がそうだ。 語尾を伸ばすのである。 このようなことばのシブは数え上げていけばきりが無い。「……だもんね」 「……なのだ」 「……まんねん」 「……すら」 「……もあるでヨ」 「……してもらいます」 「……と

いうわけ」 「……でございますすすすね」 ……。それからアタマのほうでは「おぬし」 「どういうわけか」 「男は黙って……」 ……。 として、会話の途中に投げ込む間投詞がまた多い。「さーすが」「やったぜ」「ようやるう」「ぐんばつ」「うそもいえない」「おぬしやるな」「超えてるう」「ふざけるとよ」「なんかへんだナ」「おたっしやでー」 ……。

これらを通じて思うことは、まず、これらのことばが、放送のCMや漫画に発するものばかりだということ。 いくら語呂が悪くても、いくら意味不明のものであっても、毎度くり返し聞かされ見させられていれば、いつの間にかなじんでしまつて、それがいつしか流行語にもなるうというものだ。それだけ若者たちが聴・触覚的でもあるわけ(聴・触覚的というのをことばでみれば、「田滑」が「スイスイ」で「強引に運ぶ」が「ガーツ」ともつてく、「足りない」が「ズッコケる」などか)。

それをねらつて次々に新しい文句を送り続けるCMマンもあきれほど精力的だ。 かつては文学青年が流行語を作つたが、いまは広告青年ともいふべき一団が日本語を拡張し乱している、という批判も当を得ているだらう。

仲間だけのサイン



次に、最近の特徴的な傾向として、深夜放送のことは見逃すわけにはいかないだろう。小学生にはほとんどみられなかったラジオの影響が、中学生になると急にふえてきているという流行語の調査結果がある。家族の寝静まった深夜、ひとりラジオを聞く学生たちの密閉空間、親も教師も不在の、ただ電波だけがそこに届く密室で、「ビヤ」といっちゃおう」だの「お手紙ガンガンちょうだい」だの「なんたってピロリンだ」だのということがばが交錯する。彼らを孤立した密室のカプセル人間とよんだりするが、電波だけが結び連帯感なことばの流行に与える影響は想像以上に大きいとみなければならぬ。

次に、これらのことばの効用はサインのような役割を果たしていること。そのことばを知っているから仲間なのである。間投詞はもとより、ことばのアタマにせよシッポにせよ自分のことばを言うときにそれを付けることによってコミュニケーション効果が高まるのである。だからこれらはすべて幅広い応用がきく。自分の気持を表わすのに、こうした修辭のワクをはめるとか、一種の符号に近いナ

マのことばを投げ合うとかいうのも、彼らが大衆団交的世代だからだろう。観念的論理より直接的・肉体的にワイワイもみ合う世代だからなのだ。CMにも「ワイワイガヤガヤ」（丸井百貨店）入りがある。

その意味では、これも現代の流行語「ビー・イン」がよくしめしめている。アメリカのイッピーたちが集まってロックを踊ったり詩の朗読をしたりする集会である。ニテ「イー・イン」や「シット・イン」「リード・イン」「ラブ・イン」など、「イー・イン」はますます多様に使われているが、いっしょに、みんなで、徹底的に、の意味があり、いまの若者の生地にびったりくることばである。

それだけに、若者ことばについて、世代の断絶だの思考との絶縁だのという批判も多いだろう。だが、このたいへんな冗舌、少年少女のこまっちゃくれたふざけあいや駄じゃれからテレビの視聴者参加番組のおくめんもないおしゃべりがはらんしている反面、失語症の群象があふれている。

朝の団地、ひるさがりの町かどに、「あいさつのかわされることば」まれの世相のなかで、ことばがかわされない、ことばが、満足に通じない、社会が生まれつつあるのは、若者との間の問題だけではないの

である。

もうひとつ、ある幼稚園の先生の話だが、かつては幼児語というのがあったが、いまはテレビ語というべきだろうという。最近の流行語の通用範囲は急激に年齢層が下がってきているデータがある。

これは、いまの流行語そのものが幼児化傾向を帯びてきていることともかかわることだろう。漫画に没頭する若者から自由にCMことばをあやつる幼稚園児まで、ことばを流行語に関するかぎり、かなり平準化してきたのである。つまり、テレビ世代ともいうべき層がはっきり現われてきたともいえるのであろう。

脱日本語化



「オトウトみたいないモウトが、とつじょメタモルしたのです。アットおどろくアニキども」

これは十月から始まったTBS系のテレビ番組、「美人はいかが」のPR文句の一つである。

最近じつに目立つのがカタカナ語で、外国語のカタカナが多いのは相変わらずだが、同時にふえたのは日本語のカタカナ表記である。まず外国語からあげると「フェミニンなドレスにマニッシュなブレ

ザー」といったPR文章をはじめ「ビューティフル」だの「ファンタスティック」「スキんシップ」「スワッピング」など、ナマのままの外国語が相も変らず多い。と同時になんでも外国語化してしまいう傾向。「イヤ・エンド・ギフト」とは「お歳暮」のこと、「ワシマン」から「アンマン (unman)」、「へ」とは「無人化」のこと、のたぐい。

国鉄の「ディスクーパー・ジャパン」もこれだ。もちろん応用も相変らずで、「つきあい」は「パー トナーシップ」、「危機一髪」(たとえば麻痺の危険牌を振ったときなど)を「ニア・ミス」といったぐあい。それからついでだが従来なら、「フアンタジック」と言うところを「ファンタスティック」と原音なみにしゃれて言う傾向も出てきている。

でなければ逆に徹底した略語化だ。前掲PR文の「メタモル」もこれで、「メタモルフオーゼ」の略で「変身」の意味。以下、近頃の略語の例をあげてみると―― ノンテイ(ノー・パンテイ)、ノ

ーブラ(ノー・ブラジャー)、トレパンタロン(トレーニング・パンツ風パンタロン)、ジャンスカ(ジャンパー・スカート)、クイッキンク(クイック・クッキング)、など

デノミ(デノミネーション)、インテグ(インテグレーション)、ジョイベン(ジョイント・ベンチャー)、などといった時事用語もみんなミニで済ましている。

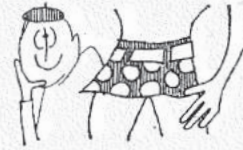
もちろん日本語のミニ化も相変らずだが、これはこのあととめて考えることにして、ここではふえたカタカナ語、外国語に続いて日本語のカタカナ化について。これは、「破廉恥」を「ハレンチ」、「猛烈」を「モータレス」あたりらしい見本がある。

前掲PR文の「オトウト、イモウト、アニキ」も「弟、妹、兄貴」と書くのとはだいぶ違った印象がある。漢字をわざわざカナ書きすることによって、視覚的な新味もでてくるし、従来とは違った意味づけをねらったりもするわけだ。

とくに「アンボ、ヒロシマ、オキナワ」などはカナでなければならぬという説がある。つまり、「アンボ」とは「安保条約」ではなく「安保条約をふくむ日本の全体的な状況」をさすのであり、「ヒロシマ、オキナワ」はもはやたんなる「広島、沖縄」といった地名表記ではないのである。

これらを見ていくと、若者を中心とした現代日本語は、幼児化、聴・触覚化、ミニ化などを含めて脱日本語化ともいえるような世帯をつづけている、その現象がよくわかると思う。

ミニ語化実談



さて、ミニ化だが、作家の沢野久雄氏が、あるコーヒー店にはいつて、コーヒーを注文したら、若いウエイтрレスが、「ホットですか、レココですか」と聞いた

ときの話を、新聞に書いておられた。「ホット」はわかる。しかし「レココ」はわからない。ようやく、「冷」と「コーヒー」とをなじませたことばだとわかったが、しかし「レココ」はもうことばとはいえない、と氏は言っている（簡略への欲望を排す「東京・昭45・7・2」）。

次は、女優の北林谷栄さんの話（雑誌「放送文化」へ昭46・7）での対談記事）。

「家へある学生がまいりまして、いま学校でどういう活動をやっているの」と聞きましたら、「ギリケンです」というんです。「え、私、なんだかわかりませんでしたが、もう一度聞きなおしましたら、「ギリ研です」という。これはギリシャ演劇研究会なんです。いやしくもギリシャ演劇をやるという人間が、感覚として、「ギリ研」ということばによく耐えられるということですね。「ギリケンです」「えっ」ともう一べん聞かれたということで、なにか

どこかでハツとしていい。ギリシャ演劇の研究会に属しています、というふうに言いなおす神経も持たずに、また、「ギリ研」ですと大きい声で言うんです。それには驚きました」

この北林さんの話にたいして、聞き手の戸板康二氏が、「シェイクスピアの「ロミオとジュリエット」のことを「ロミ・ジュリ」と言った女優の例をあげる。北林さんはこれについて、

「たとえば、「ロミ・ジュリ」と言うことから、シェイクスピアに対するそれなりの理解を生み出す条件を、こつち側から切り落としていられるように思いますね。われわれだって理解は足りませんが、シェイクスピアと向き合う態度として、大事なものを切り落としていられるというふうに思いますね」と言っている。テレビ「蘭子ひとり」で絶妙なおばあちゃん役を演じた北林さんの話は痛烈だ。

古くは「エンタープライズ」の「エンブラ」、「万国博覧会」の「パンバク」から、農村での現代用語、「稲作転換」「イナテン」、労組での「組合平均賃金」の「クミチン」、そうかと思えばスチューデントは「スケチン」なんぞと言っている。「スケジュール・チエンジ」つまり「予定変更」のことだ。まさにミニ語時代——。これらミニ語は、つまりは関係

者の隠語の一種ともいえるわけだ。そこで沢野氏はいう。通じにくい人の前で使うとしたら、それはたとえばテレビ・タレントが特殊な化粧を施したまま嗜れがましく街を歩くようなものである。タレントがタレントであることを誇示しようとする心理がそこにあり、タレントにあこがれる風潮が世間にあることが彼らを一層いい気にさせている。テレビ・タレントとそのファッションが引き合いに出るところ、このミニ語、まことに現代風俗そのものというべきか。

何でもくつける



これも、若者にかぎったことではないのだが、複合造語化ともいべき現象も、あげておきたい。たとえば、「脱○○」「ミニ○○」「全○○」「超○○」「欠陥○○」「ハレンチ○○」

これに「ストップ・ザ・○○」（美濃部知事のキャッチフレーズ）「ストップ・ザ・サトウ」に発するもの。最近は大に防止で「ストップ・ザ・砂糖」などと転用されるもの、それからシッポにつける「○○リップ」「○○パワー」「○○公害」「○○人間」、新しいところでは「○○ショック」。

え、流行中の「ドル・ショック」「ニクソン・ショック」、ちょっと古いところで「三島ショック」、もっと古くは、六三年の「ケネディ・ショック」に六八年の「ジョンソン・ショック」、いちばん新しいのは心臓の疾患で急逝した玉の海に発する「ハート・ショック」など（テレビの猿奇ルポに「ショック」）というのがあったし「まいった、ヘエー」の意味で「ショック」と言ったり、週刊誌の、「衝撃の告白」のたぐいはあったが、複合造語としては最近の流行だ。

「アッ」と驚く……ではないがたて続けに起きた航空機事故をはじめとして、もろもろのショックの多いおりから、当然、この「○○ショック」、流行しそである。

とにかく新聞の見出しなどから「欠陥○○」だの「○○公害」だのを数え上げたキリのない話だし、ちょっと目先の変わったことであらさずすれば「脱○○」だし、ちょっと氣勢をあげさせれば、「○○パワー」、女性なら「○○リップ」（「おばあちゃんリップ」や「尼さんリップ」の見出しあり）とマスコミが命名してくる。キャッチフレーズをつける都合から、多少くつつぎあいがあるが、複合させてしまふ。ムリな造語は承知の上で新語増殖をはかるのだ。

りしええすればなんとか格好はつくのである。だから新種が生まれるまでは「半分」なんか○○○○、○○○○と「か」が続くことだろう。この点、たとえば「ガンバラナクチャ」（南州太郎が言っていたことあり。昭和四十六年五月からの新クロモントのCM流行語として、定着した）のとき、単発ものの傑作は転用がきかないだけ割損だ。「アッ」を驚くタメゴロー」もこの例で、結局は消えた（ただし、これは「アッ」と驚く○○○○）としての応用例はかなりみられたが、本体が消えるとともに運命をともした。

だが、考えてみると、アタマにつける、シッポにつける、くつつけるというところは、若者口調の「どういうわけか……」や「……だもんな」のメカニズムと似たりよったりではないか。してみると、現代は、だれかが言い出したことばに寄りかかって、ものを言っている、ことばの上ではあまり芸のない時代ということか。それを憶面もなく借用するかどうかなのか。

生来のテレビ屋ではにかみの精神が年齢とともに変質、話術の見事な「間」として定着したという徳川夢声、奇声や拍手やらを浴びて、おどけるいまのタレントに比べれば、個性的ではあってもケレンには遠い、おとなの語り口をもった彼の最近の死が、なにやらひどく暗示的に思えるのである。

ことばの広場 2

若もの語

学生語

について

赤塚行雄

評論家

フューチャリーズ



「現代用語の基礎知識」の初版がでたのは一九四八年（昭和二十三年）。今年で二十五年目を迎えたわけだ。一九四八年は、高校や大学が新制にきりかわった年で、「アチーブメント・テスト」という新語にまごつく親も多く、わが子に「アチーブって何のことだい」と訊ねる始末。とにかく、ふるい頭をきりかえるのにそがしいところだったから、本書は大いにうけた。

そのころから、すでに「過去に向っている辞書」とは異なる「未来に向いた辞書」が必要となってきたわけだ。とりわけ、ここ四、五年の間に誰もが切実にその必要を

感ずるようになったのは、フューチャリーズ（未来語）なしには、学問もできないというところがハッキリしてきたからだろう。ひとりトフライーだけではなく、新しい問題にとり組む研究者は、必ずフューチャリーズを造語する。

若者たちの世界からも、新しい言葉がどんどん登場するようになつた。とりわけ東大、日大をはじめとした全国各地の学園で闘争が高揚したころ、たくさんのグバ・アン語が生れた。一点突破の全面展開とか泥沼的發展とか数えきれないほどの言葉が生れた。

激しい胎動のあるところには、必ず新しい言葉の誕生がある。新しい言葉は、新しい心である。アメリカの大学のタテ看に「空手」という漢字がみえた。ハーバード大学のジョンストン・ゲイトわきの塀の上方には、今でも白ペンキで「空手」という漢字が消しわすれられているはずである。

アメリカの若者たちにとって、「空手」には、敵に素手で立ち向かうというイメージがあり、それは同時に自分たちの立場でもあったから、この言葉がおもしろがられたのだろう。逆にまた、たとえばNATO軍の男の子という、あちらの女子学生用語が、いつの間にかこちらに入ってきて流行したたりもする。これは、NO・ACTION

・TALK・ONLY、つまり、デートにさそっても、おしゃべりしているだけのつまらない男の子という意味。もともとは、セブン・シスターズと呼ばれるパッパ、ラドクリフその他の東部の女子大生たちの隠語だった。このころは、若い人たちの間では、グロバルな規模で言葉が流れている印象がある。

若もの語の群芳



グルービー（Groovy）いかす、すばらしい。「こいつはグルービーだ」。石油のCMから次第にひろがりだした。この言葉は、もともとは黒人ヒップの隠語で、グループ II groove 溝に由来している。アメリカの地上社会で、金持や権力のいいなりに生きて生きるよりは、頑固に抵抗して溝の中に入っていたほうがよいという意味。このグループからグルービーという形容詞がでて、カッコいいというような意味でつかわれるようになった。

脱セクト 七〇年安保闘争で機動隊のカベを破れなかった全共闘にあきたらず、さりとて、赤軍派や京浜安保共闘のような超過激集

団にも走れなかつた分子たちが、二、三人から十数人ぐらゐの小グループを結成、ゲリラ的な動きをするようになった。この脱セクト現象は一九七一年の沖繩デーあたりから目立ち、特徴として黒ヘルが多いのだが、黒ヘルに書かれた文字は、殺、犯、凶、ア、弾、強姦団、叛、∞、哲、建など。わかっているものだけでも法大、中大をはじめとした、十三大学から百四十四団体、高校生グループ九団体、反戦労働者十八団体。

状況倫理 あらゆる行為は、行為そのものをいいか、悪いとか論じられない。あらゆる行為は、状況に関連してはじめて倫理的道徳的な価値をもつ——という考え。アメリカやヨーロッパの神学者が主張するもので、代表的な人物は、ジョセフ・フレッチャー、カール・バルト、デートリッヒ・ボンヘッフアーなど。

たとえば、婚前交渉そのものをいいとか悪いとか言っても仕方ない。愛しているのならおやりなさい、けれど迷っているのならおやめなさいという。ザ・ビッグ ビッグは体制の首脳、FBI、警官のことだが、ジエスタブリッシュメント（The establishment）（体制）にかかわって、ザ・ビッグ（The big）といわれだしてきた。今さら、エスタブリッシュメントなどという言葉

をものものしく使っているのは、当の体制の中の人物だという。フリーク 一九七〇年代に入ってからヒッピーという言葉は、フリーク（Freak）（変種）という言葉にとつかわられたつがある。ちょうど、一九五〇年代の若者たちのボヘミアンであるビートが、一九六〇年代に入ってから、いつの間にか、ヒッピーという言葉の中に包括されてしまったのに似ている。ボヘミアンとその共感者の数は、ビートからヒッピー、ヒッピーからフリークへと進むうちに次第に多くなつてきた。

（ビー）（heavy） 最高の、あるいは強力な。「おお、そいつは、ヘビー・アイディアだ」。フリークがよく使う。コスミック（cosmic） 宇宙の、広大なといった形容詞がもともとの意味だが、重大なという意味でつかわれる。「こいつはコスミックなお気に入りの言葉」。

マガジン・ジャック この言葉は、若者が中心の雑誌「ミュージック・レター」や「YOU」にあらわれてから、次第にひろがったもの。ペーパー・ジャックともいう。大学、司法問題の次はマスコミの占拠が必要だと主張する者も多い。「ミニ・コミによってマス・コミを包囲せよ」というスローガンもある。

反体制の若ものたち



エンライツメン
ト (enlighten-
ment) 辞書にて
いる意味は、啓
蒙だが、アメリカ
のSDS (民主社
会のための学生連
合) の学生たちは、今こそ生きて

いるぞと思えるような鮮烈な生の
自覚、アッと驚くような瞬間、と
なった意味で用いる。「エンライ
ツメントを求めて、ゲバルトする
のだ」。

トゥゲザー (together) 精神
的によくバランスがとれたという
意味。フリーク族がよく使う。「君
はこの頃、トゥゲザーらしだね」
というのは、「君はこの頃、調子
がいいようだね」という意味。神
の恩恵とともにあるということでも
ある。

ファー・アウト (far out) ナ
ばらしい、最高の。「そいつはフ
ァー・アウトだ」既成のものの方
方、考え方から遠くはなれたとい
う意味で、前衛的という意味でも
ある。

ザ・プラネット (The planet)
地球、世界のこと。

ライト・オン まさにその通り、
異議ナシという意味。That's
right とさう叫びは、この鋭い
Right on とさう叫びに代ってき
た。

オフ (off) 消すこと。ふつう
の殺人ではなく、政治的殺人をさ
す。同志が警官をやる際に用いる
が、逆に同志が警官にやられる場
合はオフとはいわない。

第三意識 エール大学のチャー
ルズ・フレイ教授の「アメリカの
緑色革命」"The Greening of
America" とさう論文からでた。

簡単に言うと、第一意識は、農業
社会的な倫理道徳の意識。第二意
識は、産業社会の物をめぐる欲求
の意識。だが若者たちは、貧しく
とも、もっと生き生きと生きたい
と考える。人間的な価値をハッキ
リさせて行こうとするそうした意
識を第三意識と呼ぶ。その度合を
グリーン度という。

「闘う中核」のセクスズム 穏健
な闘い方をやる革マル派が「女革
マル」といわれるのに対し、中核
派は、東大闘争、三里塚などで常
に先頭に立ち「闘う中核」、男
中核 などといわれてきたが、一
九七一年七月十五日の三十回大会
で、「女を闘って何が革命よ！」
とウーマン・リブの火がついた。

石運び、救済、そしてセックス処
理——そういうセクスズム (Sex-
ism) 男女差別はゆるせないとい
う。因みに一九七〇年にSDSに
おいても似たような問題が女性た
ちによって提出された。

サッポロライト 男女の髪さつ
き合いのこと。警視庁が新しくま

とめた非行青少年の隠語には、こ
の他、売れないおセン (オールド
ミスの先生)、プロペラ (シンナー
遊び、ぐるぐる目がまわるとい
う意味)、パイテカ (ポインちゃんの
こと)、安保 (仲間と組んでカンニ
ングをすること)、カッコイパッ
ク (格好をつけた後姿) などがあ
り、高校生あたりがよくつかう。

ディック (Dick) 自分なりにこ
つこつ勉強すること、そして理解
すること。自分なりにディックし
ているから、フィーリングをきか
せて生きることができるとい
う。

ヘッド マリファナのことをホ
ット (Hot) とかグララス (Grass)
とかジョイント (Joint) とかメア
リー・ジェーン (Mary Jane) と
かいろいろ呼ぶ。ベニイ (Benny)
とは覚醒剤ベンゼドリン。LSD
のことはアシッド (acid) と呼
び、その常習者をアシッド・ヘッ
ド (acid head) と呼んだもの
だが、今日のフリークたちは、若
者文化の構成員を、クスリとは関
係なくヘッドと呼ぶ。

聴・触覚語の氾濫
脱サラ とは、
脱サラリーマンの
こと。鶏口となる
も牛後となるなか
れというわけか、
よく使われる。万
国博という略称を



決めても一般にパンバクという言
い方のほうが流行したように、四
音節は無視できない。
シコシコ、モテモテ、キンキン、
メロメロ、ゴテゴテなど二音反復
の聴・触覚語が若者たちの間で流
行したのも興味深い。ゲバルトも
ゲバと略して、ゲバゲバにする
愛嬌がでてる。

バー、キャバレーでのいかがわ
しいサービス、週刊誌ではナメ
ナメ・サービスと書いている。ナ
メナメ・サービスとは如何なるも
のか知らない者も、何となくわか
ったような気にさせてしまうところ
が四音節のおもしろさである。

接物をチュとい、乳房をホイ
ンという。「あなたはポインをモ
ミモミさせるのが好きでしょ」な
んていう文章が少女雑誌にでてい
る。めくじらを立てなくともよい
のであって、少女たちは、大人が
考えるのとは異なる遠近法で、さら
っと読み流す。

かえって、接物とか乳房とか採
むとかいう言葉のほうが、どぎつ
いのである。
まんねんとか、だとか、のだと
か、てようとか、だてようとかい
った強調のさせかたも、TV、ラ
ジオなどの影響で、子供からサラ
リーマンにいたるまで大いに流行
した。

大不況の時代が来るとい
TVのCMからでた「ガンバラナ

クッチャン」というのも切実な響
きをもっている。
相づく航空事故から、ニア・ミ
ス (異常接近) という言葉が流行
し、「ちょっと彼女との間でニア
・ミスをおこしてゴタゴタしてん
だ」なんていう使われ方を
する。
若いサラリーマンの間では、キ
ウイ亭主という言葉がよくわか
れるが、これは、キウィ・ハズバ
ンド。

ズレはもともとマリオ語
で、ニュージーランド特産の国鳥
の名だが、走鳥で飛べない。そん
なところから、家庭で鳴かず飛ば
ずの状態を女房の尻にしかれてい
る亭主の名となった。「週刊朝日」
(一九七一年十月十五日号)で「あ
なたのグリーン度をテストする」

と題して、第三意識の問題を紹介
してから、サラリーマンの間に、
グリーン度 (第三意識参照) とい
う言葉がひろまりだしてきた。第
三意識が強い人間を、「あついは
グリーン度が高い」などという。

そういうえば、最近の新語・流行
語の特徴のひとつは、第一意識や
第二意識を茶化した
り、あるいは告発したりする言葉
が多い。そういう意味では、「現
代用語の基礎知識」は、さしずめ
グリーン度の高い辞書ということ
になるであろうし、各分野でグ
リーン度は、ますます必要となっ
てくるであろう。

ことばの広場 2